

EUSI メールマガジン Vol. 087

「同盟から見た協調的安全保障——ウクライナ人道支援・災害救援を例として」(吉崎知典)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 069】

「同盟から見た協調的安全保障——ウクライナ人道支援・災害救援を例として」
吉崎知典 (防衛省防衛研究所特別研究官)

2015年9月、NATOの欧州・大西洋災害対処調整センター(EADRCC)はウクライナ国家緊急事態対処局と共催により、同国西部にて人道支援・災害救援(HA/DR)演習を敢行した。その開会式にはNATOのシュトルテンベルク事務総長やウクライナのポロシェンコ大統領も参列し、専門家・約1100名が集う大規模な演習が展開された。

その目的は「民間緊急事態計画」の分野でNATO加盟国およびパートナー各国の能力を強化する」とされ、NATOはあくまで各国の活動を支援するという姿勢が貫かれている。

事実、演習ではウクライナ国家緊急事態対処局が中心となって現地の警察、消防、国境警備隊を調整し、演習でも人道支援の独立性・不偏性・中立性が前面に打ち出されている。つまりNATOとしてウクライナでのHA/DR演習はあくまでも協調的安全保障を高めるという論理で説明されている。

それでは、冷戦後NATOは協調的安全保障という論理から人道支援・災害救援を推進してきたが、ウクライナ危機が深刻化する現在、同盟がこうした非伝統的安全保障分野で訓練する意義はなんだろうか。最前線のウクライナでの演習開催は、地域安全保障にどのような影響があるだろうか。

NATOのウクライナ2015演習:

NATOのEADRCCは9月21日から25日にかけてウクライナ西部のPKOセンター敷地および周辺で人道支援・災害救援に関わる指揮所演習及び実動演習を行った。参加範囲はNATO加盟28か国に加え、欧州大西洋パートナーシップ理事会(EAPC)、地中海ダイアログ(MD)、イスタンブール協力イニシアティブ(ICI)、グローバルパートナー(PaG)、そして国際機関として欧州連合(EU)やNGOも含まれた。

公表資料によればシナリオは、1. 硫黄鉱山で爆発・落盤が発生し、2. これによって発生した地震により死傷者が発生し、3. インフラ機能停止により化学工場も被災するとし、化学・生物・放射線及び核(CBRN)汚染を含む複合的危機を想定している。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol69.pdf>

【アジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップ参加報告】

「EU 研究ワークショップ体験記」

本庄萌 (一橋大学大学院法学研究科 比較法専攻 博士後期課程 1年)

1月20日から22日までの3日間に渡ってタイで開催されたアジア・太平洋 EU センター大学院生ワークショップに参加させていただき、博士課程部門で最優秀賞をいただいた。同ワークショップの魅力と、自分が得た経験について書かせていただきたく思う。

同ワークショップは、毎年1月から2月に行われている。今年度は、例年の同時期より暑いといわれるタイのバンコクに、EUに関連した研究をしている大学院生が25名程集まった。

ワークショップは、広い視野を持つ EU 研究者を育てよう、という大学院生に対する温かいサポートにあふれたものであった。

同ワークショップの魅力は尽きないが、大きく言って、アジア圏を中心とした大学院生との出会い、(EU 圏)外から見た EU への視点の獲得、今後の研究に活かせるアドバイスを EU 研究を牽引する先生方からもらえること等が挙げられる。主に台湾、中国、韓国、ニュージーランド、日本などで研究する大学院生及びレフェリーである教授陣は、経済、比較文化、社会学、法律など異なるバックグラウンドを持っており、どこもかしこも多岐に渡る EU の話で盛り上がった。

2日目、3日目には、大学院生が15分の発表を行い、レフェリーでもある EU の研究者の先生方からコメントをいただいた。学問分野、国や地域、立場を超えて、様々な先生方から具体的なアドバイスをいただける機会はあまりなく、とても刺激的であった。

以上のようなワークショップの魅力は、気候の暑さと微笑みの国と言われるタイの温かさで、より活気あるものになっていたのではないかと感じた。

私自身は、"The EU as World Leader in Animal Welfare: Laboratory Animal Law in the EU and Asia" (動物福祉で世界をリードする EU—EU とアジアの実験動物法) というテーマで発表させていただき、神戸大学の吉井先生から、鋭くも思慮深い質問をいただいた。発表後は、人権問題が問われる中で、人の利益と抵触しうる動物保護という難しいテーマを学術的に扱っていて勇気がある、と韓国やニュージーランドの先生方が褒めに来てくださり、大変嬉しく思った。

閉会式では、発表者の表彰が行われ、畏れ多くも博士課程部門の優勝者に選んでいただくことができた。今後は、ワークショップで得られた、学際的な視点を最大限に活かす研究を深められればと思う。

最後に、今回のワークショップという機会をいただき、中西先生、田中先生、八谷先生、吉井先生、そして EUSI の方々に感謝の意を示させていただきたく思う。また、指導教官である青木先生には、発表内容へのアドバイスやワークショップ参加を後押ししていただいた。

<http://www.law.hit-u.ac.jp/information/2014/20150558.html>

<http://www.law.hit-u.ac.jp/eng/news/2015/9.html>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI ワークショップ「1963年危機と欧州統合の救済」

日時: 2016年3月2日(水) 17:00-19:00

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B3 2B35 教室

講演: Oliver Bange (ドイツ国防省軍事史・社会科学研究所(ZMSBw)主任研究員)

「歴史の断片を繋ぎ合わせて——1963年危機と欧州統合の救済」

"Picking up the Pieces:

The Crisis of 1963 and the Rescue of European Integration"

討論: 小川浩之 (東京大学大学院総合文化研究科准教授)

司会: 細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授、EUSI 執行委員)

言語: 英語 (通訳なし)

参加: 無料・事前登録不要 (どなたでも参加できます)

<http://eusi-politics.tumblr.com/post/139158156695/>

<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/seminar-politics/2016-0302/>

2. EUSI 経済グループ共催・津田塾大学 FD 支援研究懇談会シリーズ

「経済学を考える」

日時: 2016年2月26日(金) 13:00-14:30

会場: 津田塾大学小平キャンパス 新館 第一会議室

小山洋司 (新潟大学名誉教授)

「新規 EU 加盟国のユーロ導入の見通し」

問合せ・申込先: EUSI 津田塾分室 (eusi@tsuda.ac.jp)

<http://www.tsuda.ac.jp/news/lecture/2016/0223.html>

3. 日本 EU 学会より以下のご案内が届いています

「第37回研究大会(2016年度)報告希望および『日本 EU 学会年報』執筆希望受付」

日本 EU 学会 第37回研究大会(2016年度)

日時: 2016年11月26-27日(土・日)

場所: 一橋大学 国立キャンパス

共通論題: 「自由・安全・正義の領域—難民・テロと EU—」

学会報告/年報執筆申込締切: 2016年3月6日(日)

原稿締切: 2016年10月20日(水)

(詳細は以下の日本 EU 学会 HP をご覧下さい)

<http://www.eusa-japan.org/?p=1002>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)

「国際協定により設立された機関における EU の立場の設定権限」

『国際商事法務』第44巻第2号(2016年2月) 296-301 頁

<http://www.ibltohyo.jp/bulletin/1146.html>

【EU に関する新刊紹介】

小久保康之編著『EU 統合を読む 現代ヨーロッパを理解するための基礎』
(春風社、2016年3月7日刊行予定)
<http://www.amazon.co.jp/dp/4861104831/>

本書の編著者である小久保康之先生より、本書のご紹介を頂きました。

本書は、2015年前期に東洋英和女学院大学で行われた連続研究講座「EU 統合はヨーロッパの救世主足り得るか？」で講演した6名に、更に2名を加えて総勢8名のEU研究者が総力を挙げて執筆した入門的教科書である。

EU 統合についてこれから学ぼうとする学生や一般の方々に、複雑なEU 統合の実態について理解を深めてもらうことを目指したものである。学術論文集ではなく、あくまでも教科書として利用してもらうことを念頭に置いて編纂したが、各章の学術水準は高く、研究者でも読み応えのある内容となっている。

執筆陣は、全員日本EU学会の理事(元理事を含む)であり、政治学、経済学、法学の各分野から参加してもらい、EU 統合を理解するためには学際的な視点が必要であることを印象付けている。各章ごとに執筆者独特の個性があり、執筆者の顔が思い浮かぶ読者にとってはその意味でも面白い本と言えよう。以下、各章のタイトルと執筆者を挙げてみる:

- 第1章 EU 統合の概要 (小久保康之)
- 第2章 ヨーロッパ統合と市民 (田中俊郎)
- 第3章 EU の制度と政策のイノベーション (福田耕治)
- 第4章 EU の経済統合と単一通貨ユーロの発展 (田中素香)
- 第5章 EU 法という新しい法体系 (須網隆夫)
- 第6章 EU の対外関係 (植田隆子)
- 第7章 人道援助・市民保護と共通外交安全保障政策 (植田隆子)
- 第8章 フランスと欧州統合 (渡邊啓貴)
- 第9章 EU 統合と現代ドイツ (森井裕一)
- 第10章 EU 統合と現代イギリス (田中俊郎)

編者の小久保が担当した第1章は入門編、第2章から第7章で、EU の政治・経済・法律・対外関係を概観し、第8章から第10章で仏独英の3大国とEU との関わりについて考察している。

巷で広まっている表層的な現状分析によるEU 崩壊論とは一線を画し、EU 統合がその長い歴史の中で幾度となく危機を乗り越えてヨーロッパに平和と繁栄をもたらしてきた軌跡を丹念に辿りつつ、未だに多くの課題を抱えながら試行錯誤している様子にスポットライトを当てている。

小久保康之 (東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科長、日本EU学会理事)

【EU に関するニュース】

- 2016年2月1日 EU・ベトナム自由貿易協定(FTA)全文発表。昨年12月に交渉妥結、全18章
- 2016年2月1日 EU 及びアフリカ連合(AU)、AU 首脳会議にて行政協定締結。両者間の行政機関協力拡大規定
- 2016年2月1日 ドラギ ECB 総裁、欧州議会にて3月 ECB 理事会の追加緩和示唆、英EU 残留で信頼感向上と証言
- 2016年2月2日 トゥスク常任議長、英とのEU 改革をめぐる解決案を加盟国首脳に提示。4つの争点別に整理

- 2016年2月2日 キャメロン英首相、トゥスク常任議長の解決案受け、国民にEU残留訴える用意あると表明
- 2016年2月2日 欧州委員会、テロ資金対策強化のための行動計画を発表。資金源及び資金移動の防止が柱
- 2016年2月2日 欧州委員会、水銀に関する水俣条約の批准手続に関する提案を採択
- 2016年2月2日 対IS有志連合外相会合、伊で開催。EU含む25代表参加。イラクとシリアでの掃討強化確認
- 2016年2月2日 Eurostat、2015年12月失業率(季節調整済)はユーロ圏19カ国10.4%、EU28カ国9.0%
- 2016年2月3日 EU28カ国、対トルコ難民ファシリティ予算の2/3に当たる20億ユーロ分の各国分担額合意
- 2016年2月3-4日 英YouGov世論調査、英EU残留支持36%、離脱支持45%で、前週調査より離脱派拡大
- 2016年2月4日 欧州委員会、冬季経済予測。低原油価格などの成長要因の一方、不確実性リスクも指摘
- 2016年2月4日 シリア及び周辺地域支援会議、ロンドンで開催。EU、30億ユーロ超の追加支援を表明
- 2016年2月4日 EU報道官、北朝鮮「衛星」打上げ予告に対し、安保理決議違反と指摘、関係国と調整表明
- 2016年2月4日 欧州議会、香港出版関係者5名の中国拘束の疑いに関して、中国に即時解放要求の決議採択
- 2016年2月5日 EU加盟国防衛相非公式会合、EU・NATO防衛協力や6月発表予定のEU世界戦略の準備等を協議
- 2016年2月5日 EU報道官、イラクで80名に死刑執行命令が発表されたことに対し、執行停止を求める声明
- 2016年2月5日 モゲリーニ上級代表ら、世界女性性器切除(FGM)根絶の日を前に、FGM被害者保護謳う声明
- 2016年2月6日 EU外務理事会非公式会合、移民問題・対トルコ関係・イラン問題・シリア危機など協議
- 2016年2月6日 英独仏伊ら7加盟国、雇用喪失などで欧州鉄鋼業界への支援求める書簡を欧州委員会に送付
- 2016年2月6日 台湾でM6.4地震。2月8日欧州委員会緊急対応調整センター(ERCC)災害情報発信、哀悼声明
- 2016年2月7日 モゲリーニ上級代表、北朝鮮ミサイル発射を国際的責務違反と非難、関係国と協議の声明
- 2016年2月8日 メルケル独首相、トルコ訪問。ロシアのシリア空爆で数万人避難、難民増加の原因と非難
- 2016年2月8日 独仏中銀総裁、ユーロ圏共通の財務省創設など統合強化訴える記事を南ドイツ新聞に寄稿
- 2016年2月8日 シルヴァ＝ペレイラ欧州議員、武藤外務副大臣表敬。日・EU EPA交渉早期妥結協力等協議
- 2016年2月9日 欧州委員会、国際民間航空機関(ICAO)での航空機CO2排出規制の合意成立に対し歓迎の声明
- 2016年2月10日 欧州委員会、欧州移民・難民アジェンダの進捗状況報告。進捗遅れと改善の必要性を指摘
- 2016年2月10日 EU・NATO、サイバー事件に関する技術調整協定締結。EUサイバー防衛政策枠組の一環で
- 2016年2月10日 EU・米国、デリバティブ市場で双方の清算機関(CCP)要件を互いに認める共通方針で合意
- 2016年2月11日 ルー米財務長官、ユンカー欧州委員長にEUの米大企業数社への税優遇調査は不当との書簡
- 2016年2月11-12日 国際シリア支援グループ(ISSG)、ミュンヘンで開催。1週間以内の停戦手続確定で合意
- 2016年2月12日 中東カルテット(EU・国連・米・ロ)代表者会合、イスラエル・パレスチナの自制求む声明
- 2016年2月12日 モゲリーニ上級代表、ストルテンベルグ NATO事務総長と会談。人身売買取締協力など協議
- 2016年2月12日 EU、中国製シームレス管や厚板など鉄鋼製品に対し反ダンピング調査開始
- 2016年2月12日 Eurostat、昨年10-12月GDP(季節調整済)はユーロ圏19カ国・EU28カ国ともに前期比+0.3%
- 2016年2月12日 Eurostat、昨年12月鉱工業生産(季節調整済)はユーロ圏19カ国・EU28カ国共に前月比-1%
- 2016年2月12-14日 ミュンヘン安全保障会議、モゲリーニ上級代表ら参加。EU難民危機や気候変動等議論
- 2016年2月15日 ボスニア・ヘルツェゴビナ、EU加盟申請。モゲリーニ上級代表・ハーン欧州委員共同声明
- 2016年2月15日 EU外務理事会、シリア危機・対ベラルーシ制裁緩和・モルドバ・気候外交行動計画等協議
- 2016年2月15日 EU、医療・衛生対策部隊緊急派遣のため「欧州医療隊」(European Medical Corps)創設
- 2016年2月15日 ドラギ ECB総裁、欧州議会で低インフレに対し追加緩和示唆、500ユーロ札廃止検討と証言
- 2016年2月15日 Eurostat、2015年EU貿易は輸出1.79兆(前年比+5%)、輸入1.72兆ユーロ(同+2%)で黒字増

【編集後記】

欧州統合の歴史を振り返ると、現在の EU の基礎を作った大きな里程標の一つとして「単一欧州議定書」の成立を挙げることができるでしょう。

いまからちょうど 30 年前に当たる、1986 年 2 月 17 日、EC12 カ国のうち 9 カ国がルクセンブルクで、そして 2 月 28 日にはデンマークの国民投票の結果を待って残り 3 カ国がハーグで、単一欧州議定書を締結しました。

「1992 年末を以って域内単一市場を完成させる」との野心的な試みは、1985 年ドロール委員会成立以降の「域内市場白書」採択や、80 年代の新自由主義経済の勃興、更には産業界からの要請(欧州産業人円卓会議:ERT)など、様々な要因が絡み合った結果、「1992 年」という目標に向かって統合へ巨大なモメンタムを生み出しました。

また「単一欧州議定書」は、単なる経済統合の意味合い以上に、共同体レベルでの決定方式の改正や、環境や外交政策といった新しい政策領域の協力など、基本条約の実質的な改正とも言うべき極めて重要な要素をも含んでいました。そのような意味で考えると、30 年経った現在のヨーロッパは、域内の財・人・サービス・資本の自由移動が多くの分野で達成され、冷戦終結後から現在まで統合の深化と拡大に伴い、EU の成長に大きく寄与してきたことは疑いのないところと思います。

その一方で、単一欧州議定書以降の統合の流れは、特に現在の欧州が直面している様々な危機にとっても、大きな問題を突き付けているように思われます。

単一欧州議定書調印から 30 年経った、今月 2 月 18・19 日の欧州理事会で、英国が提起した EU 改革をめぐる議論は、経済ガバナンスや主権や移民の福祉制限に至るまで、様々な問題を浮き彫りにしました。

欧州統合という大きな流れのなかで、今回の合意が歴史的にいかなる意味を帯びてゆくのか、我々は少し立ち止まって考えるべきかもしれません。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
